

衛生法規に関する知識

問1 次のクリーニング業法等に関する記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) この法律は、クリーニング業に対して、公衆衛生等の見地から必要な指導及び取締りを行い、もってその経営を公共の福祉に適合させるとともに、経営者の利益の擁護を図ることを目的とする。
- (2) クリーニング業は、営業活動において公衆衛生上の影響があるため、法令等による規制が設けられている。
- (3) 下着や寝具等のように直接皮膚に接触するもので感染性の分泌物等が付着するおそれがある洗濯物は「指定洗濯物」といい、感染症まん延防止のために適切な管理及び処理が求められる。
- (4) 営業者は利用者の利益の擁護を図るため、洗濯物の受け取り及び引き渡しをする際に、利用者に対して洗濯物の処理方法等について必ず説明をしなければならない。
- (5) 洗濯物の受け取りや引き渡しに際し、利用者に苦情の申出先を書面で明示することが義務付けられており、通常、この書面はクリーニング所の名称、所在地及び電話番号が記載されている「領収証」又は「預かり証」でよいこととされている。

問2 次のクリーニング業法等に関する記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) クリーニング業に対する規制には、人的な規制（クリーニング業法第4条の規定に基づくクリーニング師の配置）と、物的な規制（クリーニング業法第3条第2項の規定に基づく業務用の機械としての洗濯機等の設備）がある。
- (2) 洗濯物の受け取り及び引き渡しの際に、利用者に対して洗濯物の処理方法等の説明を行う必要があるため、人的な規制として、取次店にはクリーニング師を配置しなければならない。
- (3) クリーニング師の資格取得には、クリーニング師試験に合格する方法と、実務経験3年の要件を満たし、クリーニング師講習を修了する方法がある。
- (4) クリーニング所の物的な規制として、クリーニング業法第3条第2項の規定に基づき、備えなければならない業務用の機械は洗濯機及び脱水機であり、それ以外の乾燥機、プレス機等は設置義務のある機械には含まれない。
- (5) クリーニング所の物的な規制や衛生措置はクリーニング業法及びクリーニング業法施行規則に規定されており、各都道府県の条例では規定することはできない。

問3 次のクリーニング師免許に関する記述について、正しいものには○印を、誤っている

ものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) クリーニング師試験に合格した者の免許申請先は、住民票のある都道府県知事である。
- (2) 本籍又は氏名を変更したときは、1 か月以内に免許を取得した都道府県知事に届出・訂正の申請をしなくてはならない。
- (3) クリーニング師は、その資質の向上を図るため、クリーニング業法において研修が義務付けられており、業務に従事した後1年以内に研修を受けることとなっている。
- (4) クリーニング師の資格は個人の資格のため、営業者はクリーニング師に対し、研修を受ける機会を与える義務はない。
- (5) 都道府県知事は、クリーニング師がクリーニング業に関し犯罪を犯して罰金以上の刑に処されたときは、その免許を取り消すことができ、また、免許の取消処分を受けた者は、10日以内に免許を与えた都道府県知事に免許証を返納しなければならない。

問4 クリーニング業法施行規則第1条の規定に基づき、洗濯する前に消毒を要する洗たく物を下の語群から5つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

ただし、洗たく物は伝染性の疾病にかかっている者が使用した物として引き渡されたもの及び伝染性の疾病にかかっている者に接した者が使用した物で伝染性の疾病の病原体による汚染のおそれのあるものとして引き渡されたものではないものとする。

〈語群〉

- ア 公衆浴場で使用したタオル
- イ 男性用スーツ（ジャケット及びスラックス）
- ウ 体育で着用した体操服
- エ 赤ん坊が使用した布おむつ
- オ 学校の給食で着用した給食衣
- カ 農作業で着帽した布製の帽子
- キ 手洗い後の手拭きで使用したハンカチ
- ク スキーで着用した防寒着
- ケ 病院の入院患者が使用したシーツ
- コ 診療所において通院患者が使用した枕カバー

公衆衛生に関する知識

問5 次の感染症及び病因物質に関する記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) セレウス菌は、環境中に広く存在し、一般的には、毒性が弱いために除菌する必要がないものの、その芽胞は熱やアルコールに抵抗性があるため、極端に抵抗力の弱い患者が使用する病院リネンにおいては、規定に基づいた消毒をする必要がある。
- (2) ノロウイルスは、食品や水を介して食中毒の原因となるが、人から人へ直接感染することはない。
- (3) インフルエンザは、流行性があり、一旦流行が始まると、短期間に多くの人へ感染が広がる。日本では、例年、6月から9月に流行する。
- (4) 新型コロナウイルス感染症患者の使用したリネン類は、通常の洗濯と乾燥の後は、安全に扱うことができる。

問6 次の厚生労働省が定める「クリーニング所における衛生管理要領」に示されている指定洗濯物（クリーニング業法施行規則第1条に規定する消毒を要する洗濯物）の一般的な消毒方法に関する記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) 熱湯による消毒は、80℃以上の熱湯に5分間以上浸すこと。
- (2) 塩素剤による消毒は、さらし粉、次亜塩素酸ナトリウム等を使用し、その遊離塩素 250ppm 以上の水溶液中に 30℃以上で 5分間以上浸すこと。
- (3) 界面活性剤による消毒は、逆性石ケン液、両性界面活性剤等の殺菌効果のある界面活性剤を使用し、その適正希釈水溶液中に 20℃以上で 20分間以上浸すこと。
- (4) 過酢酸による消毒は、過酢酸濃度 150ppm 以上の水溶液中に 60℃以上で 1時間以上浸すこと又は過酢酸濃度 250ppm 以上の水溶液中に 50℃以上で 1時間以上浸すこと。

問7 次のクリーニング業における環境や従業者を守るための規制に関する記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) 建築基準法では、引火性溶剤を用いるドライクリーニングを営む工場は、工業系用途地域においては立地可能だが、住居系用途地域や商業系用途地域では、原動機を使用する工場である場合は、作業場の床面積に応じて立地が制限される。
- (2) 水質汚濁防止法では、テトラクロロエチレン等の有害物質による地下水の汚染を未然に防止するため、有害物質を使用・貯蔵等する施設の設置者に対し、自治体への届出、地下浸透防止のための構造、設備及び使用の方法に関する基準の遵守、定期点検及びその結果の記録・保存を義務付けている。
- (3) 産業廃棄物の排出業者は、その処理を業者に委託した場合、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を使用して、委託した産業廃棄物が最終処分まで適正に処理されたかどうかを確認する義務がある。
- (4) テトラクロロエチレンを使用したドライクリーニングの業務を行う場合に遵守すべき事項には、発がん性を踏まえた措置として、作業記録、作業環境測定の結果、特殊健康診断結果等の記録を10年間保存することが挙げられている。

問8 次の環境保護に関する記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年に国連の「持続可能な開発サミット」で採択された国連が主導する取組であり、世界が2050年までに達成すべき17の目標とその目標をより明確化した169のターゲット、さらにはターゲットごとに指標が公表され、全ての国連加盟国が取り組むことで「誰一人取り残さない」世界の実現を目指している。
- (2) プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律等に基づき、プラスチック使用製品産業廃棄物等を排出する事業者は、プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出量並びに当該プラスチック使用製品産業廃棄物等の排出の抑制及び再資源化等の状況に関する情報をインターネットの利用その他の方法により公表するよう努めることとされている。
- (3) プラスチック使用合理化の対象となる特定プラスチック使用製品（商品の販売又は役務の提供に付随して消費者に無償で提供される主としてプラスチック製のもの）には12製品が指定されており、クリーニング業では、衣類用ハンガーのみが対象製品となっている。
- (4) クリーニング業界では、衣類用ハンガーに使われている原料に再生プラスチックを利用することで、プラスチックの資源循環の取組を推進してきた。

問9 次の厚生労働省が定める「クリーニング所における衛生管理要領」の「施設及び設備等」及び「管理」に関する記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) し尿の付着している洗濯物（おむつ等）を洗濯するクリーニング所には、し尿を洗濯前に処理するための場所又は設備を設け、当該処理排水の浄化設備を設けること。ただし、当該クリーニング所の開設から2年以内に浄化設備を確実に設ける場合で、都道府県知事が認めた場合は、この限りでない。
- (2) クリーニング師は、5年を超えない期間ごと（業務に従事した際は1年以内）にクリーニング師研修を受講することにより、知識及び技能の向上を図ること。
- (3) 施設内、特に引火性溶剤の保管場所、作業所は、換気を十分にすること。特に、ドライクリーニング処理を行うクリーニング所については、大気汚染防止法等に留意し、環境汚染防止に努め、気化した有機溶剤の排気又は回収に配慮すること。
- (4) ランドリー処理のすすぎには、清浄な水を使用して少なくとも3回以上行うこと。また、この場合、工程中に強制脱水を行うことが望ましいこと。

洗たく物の処理に関する知識

問 1 0 次の繊維の名称 (A) とその説明 (B) の組み合わせについて、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

(1) (A) 麻

(B) 手触りは硬く、吸湿性があるがサラッとしてべとつかない、また、品のよい光沢があり、天然繊維のなかで最も強度がある長所を生かし、夏用の高級な衣料品の素材として用いられる。

濃色に染まりにくく、脱色しやすい特性があるほか、しわにもなりやすく、アイロンでも修正しにくいなどの短所に注意が必要である。

(2) (A) ナイロン

(B) 強度の高い繊維で、長繊維でも短繊維でも特に欠点がない。

製品化したときのコシ、ハリと耐熱性が優れており、また、対光性にも優れているため、長時間露光しても強度低下や黄変は起こらない。

さらに、洗たくでの伸び縮みが少ない、乾きが早いなどウォッシュ・アンド・ウェア性 (W&W性) がよい性質をもっている。

(3) (A) ポリ塩化ビニル

(B) わが国で最初に発明された合成繊維で、ポリビニルアルコールからつくられる。

合成繊維の中では最も吸湿性が高く、強度があり摩擦に強く、価格が安いことから作業服、学生服などの衣料品に使われていた。

(4) (A) アンゴラ

(B) アンゴラ山羊からとれる毛で、白色で光沢と弾力がある。

強いコシがあるが、スラックスの折り目や鋭角に付けられた折山線部分など着用中に力がかかる部分の損傷に注意が必要。

(5) (A) 絹

(B) わが国に産する動物繊維として古代から最も身近で、近代日本の繁栄を支えた繊維。

発色が鮮やかで、しなやかさと吸湿性に優れた繊維の中の最高級品であるため優れた特長を損なわないような取扱いが必要になる。

問 1 1 次の説明文について、【 】のうち正しい方を選び、解答欄にA又はBを記入しなさい。

- (1) ランドリーとは、水に対する耐久力のある衣料品等をドラム式洗濯機で温水洗いする洗濯方式であるが、血液のついたシーツや油性汚れのひどいものは、予洗が必要であり、本洗いよりも水量は多めで、温度は【A. 40℃以下 B. 60℃以下】にする。
- (2) 洗剤の主成分である界面活性剤は、イオン性によりタイプが分かれ、アニオン系に【A. ノニオン系 B. カチオン系】を併用するとイオン結合を起こし本来の効能が相殺される場合があるため、洗剤等のイオン性によって薬剤の併用性を判断する必要がある。
- (3) しみ抜きは、油性処理→水溶性処理→酵素処理→【A. 酸化漂白処理→還元漂白処理 B. 還元漂白処理→酸化漂白処理】の順に処理を進め、処理の効果が認められるものについては、その処理を徹底して行うようにする。
- (4) 絹繊維の漂白には、【A. 次亜塩素酸ナトリウム B. 過マンガン酸カリウム】を使用すると漂白効果は小さいものの、絹繊維に対して安全である。
- (5) 絹和装の【A. 洗い張り B. 生洗い】という手入れ方法は、衿、袖口、裾口、身頃の一部の汚れを部分的に洗浄して除去する方法である。

問 1 2 次の記述について、正しいものには○印を、誤っているものには×印を解答欄に記入しなさい。

- (1) クリーニング苦情の特徴として、洗濯物の引き渡し後、時間が経過してから申出があり、事故原因や責任の所在が追跡できないことも多いことから、洗濯物の引渡し前の最終点検と洗濯物受け取り時及び引き渡し時の利用者との相互確認の徹底が重要である。
- (2) 水溶性しみ抜き剤には、アルカリ性のものと酸性のものがあり、タンパク系のしみには酸性のしみ抜き剤、タンニン系のしみにはアルカリ性のしみ抜き剤を使用する。
- (3) ドライクリーニングとは、水洗いすると縮んだり、形くずれしたり、色が落ちたりする絹や毛の繊維を使った衣料品の洗浄に水でない溶剤を用いることで衣料品への影響を抑えた洗浄方法である。
- (4) アルカリ剤には、洗剤と併用することで汚れの酸性を中和する、繊維や汚れを膨潤させる、洗濯液をアルカリ性に維持する（緩衝作用）などの洗剤の洗浄力を著しく増強する効果（ビルダー効果、相乗効果）がある。
- (5) ドライ仕上げの蒸気圧が低いときは、スチーミング（蒸気ふかし）とプレスに時間がかかり、しわが目立ったり生地ハリがでなかったりするが、高いときは、高熱によりスチーミングの際に作業員に対しても生地に対しても危険であるため、最適な蒸気圧は0.3Mpa（3 kgf/cm²）である。

問 1 3 次の JIS L 0001:2024 による表示記号について、その意味として最も適切なものを
ア～コの中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

(1)

(2)

(3)

(4)

(5)



ア つり干し乾燥がよい。

イ ぬれつり干し乾燥がよい。

ウ 酸素系漂白剤による漂白処理ができるが、塩素系漂白剤による漂白処理はできない。

エ 塩素系漂白剤による漂白処理ができるが、酸素系漂白剤による漂白処理はできない。

オ 塩素系及び酸素系漂白剤による漂白処理ができる。

カ ウェットクリーニング処理は禁止。

キ ドライクリーニング処理は禁止。

ク 洗濯処理は禁止。

ケ 底面温度 120℃を限度としてアイロン仕上げ処理ができる。

コ 底面温度 160℃を限度としてアイロン仕上げ処理ができる。